

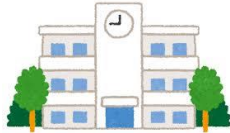


# ひなどい

【教育目標】

なかよく せいっぱい  
遊ぶ子ども

第11号 令和6年2月5日  
新潟市立新津第三幼稚園だより



## 小学校って、どんなことするの？

園長 大矢 晃子

立春を過ぎて、いよいよ春がやってきます。年長組の子どもたちは、園生活も残り少なくなってきました。1年生になることは嬉しい気持ちもありますが、まだ知らないことに不安や緊張もあると思います。そこで、新津第三小学校の先生から来ていただき、年長組の子どもたちに授業をしてもらいました。まず、先生から「小学校クイズ ここはどこ？」と小学校の理科室や音楽室などの写真をクイズにして面白く教えてもらいました。子どもたちは、知らないことを「知る」嬉しさを感じているようでした。次に「1年生の持ち物」を写真で見せてもらい、ランドセルの中に入れるものには、教科書やノート、タブレットなどたくさんあることがわかりました。子どもたちのワクワクした嬉しさが伝わってきます。そして、後半は体育です。縄跳びの授業は、苦手な子も思わずやってみたくなる先生の働きかけがあり、子どもたちのやる気にスイッチが入りました。すぐにあきらめず何度も繰り返し挑戦している様子に、もうすぐ1年生という頼もしさを感じました。



さて、「小学校～それは小さな社会～」という映画をご存じでしょうか。これは、ある公立小学校の入学式からの1年間を追ったドキュメンタリー映画です。新潟でも上映されたので、観てきました。昨年12月に公開、海外10カ国以上で放映され、注目されています。監督の山崎エマさんがある新聞で「給食は自分たちで運び配膳する」「掃除も自分たちでする」など、日本の小学校でやっていることが、海外では当たり前ではないということに触れ、授業以外の時間を撮りたかった、とインタビューに答えています。

私はこの映画で、あらためて小学校の実際を知り、多々考えさせられました。これを観た人の感想は、それぞれの立場によって受け止めに違いがあり、課題とするところもあると思います。集団生活では様々なことが起こります。しかし、小学校という生活の中で、先生が子どもの心の葛藤や思いに寄り添い、子ども自身が周りに支えられながらも、乗り越える姿を期待する教師と子どものありのままの姿には、感銘を受けました。

子どもたちが就学する小学校はそれぞれで、違いがあるかもしれません。園は、子どもたちが困らないように、小学校生活の予行練習をさせることではないと考えています。幼児にふさわしい生活の中で、心身ともに今育んで欲しいことを丁寧に支え、援助していくことが就学後の子どもの力になると確信し、保育を行っていきたいと思います。



## 節分の豆まき

「おには～そと！ふくは～うち！」



2月3日 みんなで「豆まき」をしました。



「ドンドンドン！」太鼓の音がすると、遊戯室に鬼がやってきました！



鬼はあやめ組のみんなでした。「よかった～」



「すてきな鬼のお面だね。どんなところをがんばって作ったのかな？」



「鬼の目のところが難しかったよ。」「鬼のキラキラの角」「牙のところ」など、それぞれ鬼を想像しながら作ったお面は、特徴をよく捉えていました。



節分の話を聞いて、みんなで歌を歌ったり、ダンスを踊ったりして、豆まきを楽しみました。

## 年長組 交通安全教室



1月28日に、秋葉区役所から交通指導員の方や秋葉警察署の警察官の方から、交通安全についての話を聞きました。

小学校へ歩いて登校する子どもたちは、自分で危険がないかをよく見て、身を守ることができるようになって欲しいと思います。

天気のよい日に、通学路をお家の方と歩いてみることをお勧めします。

